

## 協動的な学びから技能習得を目指す体育科番組活用

北海道旭川市立東光小学校 教諭 上森 慎詞

### 小学校4年 体育科 はりきり体育ノ介

#### 番組の特徴

分割・部分利用しやすいように、「お手本」「つまづき」「練習」「ミニ雑学」の4つの要素から構成されており、一流のアスリートによるクリップ画像を効果的に活用することができるようになっている。

#### 授業デザイン(1単位授業時間)

単元：マット運動

目標：自分の課題にあった場や方法を選び、壁倒立の練習をすることができる。

導入

準備運動・前時の振り返り

番組視聴

第20回 器械運動(マット)③

課題把握

自分のできるポイント・できないポイントを見つけて壁倒立の練習をしよう!

自力解決

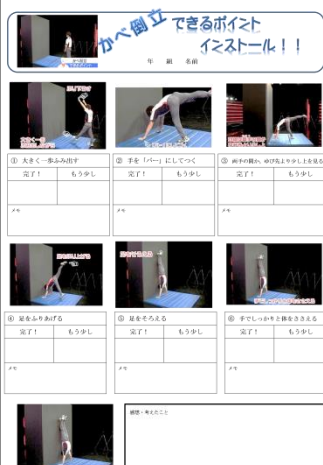
番組の静止画を入れたワークシートを使い、自分のできるポイント、できないポイントを確認する。

協働解決

互いに技を見せ、課題を指摘し合い、できるポイントを増やせるように教え合う。課題にあった場を選び、練習に取り組む。

まとめ

学習の振り返りをワークシートに記入。



#### 研究の概要

マット運動では、自己の運動の姿がとらえにくく、課題を見つけることが難しいという問題があった。そこで、番組やクリップを活用し、自己の課題を仲間の協力の下に把握し、解決していく授業デザインを考えた。前転・後転・壁倒立・側転の習得を学習課題とし、番組とワークシートから、「できるポイント」を確認して練習に取り組んだ。結果、仲間にアドバイスをもらいながら技能を向上させていくことができた。

#### 番組や関連動画クリップの活用意図

##### 技能ポイントを理解するための番組視聴

マット運動において、自己の課題を見つけるためには、他者からの指摘も必要。そこで、技能のポイントが分かりやすい動画を見て指摘するポイントを確認し、効果的に協働学習が進むように番組を活用する。

#### 授業デザインにかかわる教師の工夫

##### 番組の静止画を入れたワークシートの活用

動きの連動性が分かりやすいように、番組の静止画を入れたワークシートを作成し、「できるポイント」を確認しやすくした。

##### 基礎感覚づくりのための場の工夫

自力解決、協働解決によって知った自己の課題を克服するためには技能の向上が必要であり、そのためには基礎感覚づくりなどの練習が必要となる。そこで、それぞれの課題にあった、基礎感覚を付ける運動のアドバイスや場の工夫を行った。

#### 生き生きと学ぶ子どもの姿

##### 子どもの自己評価から

- 「すごい人が手本を見せてくれるので、分かりやすかった。」「やってみたいと思った。」と意欲が向上していることが分かる。
- 視聴しているときに「そうか、なるほど。」といったつぶやきが多く聞かれ、視聴しながら動きを理解していることがうかがえた。

##### 同僚の評価

- 手本だけでは見られないポイントを解説してくれるので分かりやすい。
- 自分ではできないことを示してくれるので活用したい。
- 視聴の時間が長くなると運動量が減ってしまう。

#### 実践を終えて〈行動宣言〉

協働学習という点で考えると、互いにアドバイスをし合えるほどになるには1回の視聴では難しい。タブレットを活用して、何度も繰り返し見て確認できる環境があればさらに番組の効果が高まると考えられる。また、できるポイントを理解しただけでは、技能向上へとはつながらない、課題を克服するための効果的な練習方法などが番組で紹介されると技能習得につながるように感じた。今後は、体育館での視聴が簡単にでき、他の教員が番組を活用しやすいように環境を整える働きかけをしていきたい。